

2015年 5月 28日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多 悦子 殿

所属機関・職名 諏訪赤十字病院
看護師

研修者氏名 橋爪 睦

印

2014年度日本財団ホスピスナースネットワーク会員に対する海外研修助成
研 修 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研修期間 2015年 4月30日～5月3日(4日間)
2. 参加学会名 Asia Pacific Hospice Palliative Care Network 2015 Taipei
3. 研修報告書(注 研修報告書はA4判横書き)

- I 本研修の成果：学んだこと、今後役立つと思う点について
- II 今後の課題等
- III 本研修助成についての改善点及び当財団へ対するご意見ご要望など

“Asia Pacific Hospice Palliative Care Network 2015 Taipei”に参加して

諏訪赤十字病院

緩和ケア認定看護師 橋爪 睦

今回、公益財団法人笹川記念保健協力財団のご厚意により、日本財団ホスピスナースネットワーク (TNFHNN) のメンバーとして、“Asia Pacific Hospice Palliative Care Network 2015 Taipei (APHC)”に参加させていただく機会を得た。また、2010~2011 年の第 10~11 回日本財団ホスピスケア研修会に委員として携わらせていただき、それらを含めた緩和ケア教育、ネットワーク支援事業をまとめ、ポスター発表を行うことができた。

APHC は今回 11 回目であったが、恥ずかしながら私自身が、1995 年に設立されたこのネットワークの概要を殆ど知らないという状況であった。アジア・太平洋諸国でホスピス緩和ケア運動を推進することを目的に設立されたこの会に、緩和ケアに携わる 14 か国の方々と参加できたことは、国内学会と違う刺激を受けた。また各国、生活や教育環境、文化的背景など土壌が変わっても、患者・家族に向き合う姿勢、意思決定を支えるために寄り添い続けること、緩和ケア教育など目指すところは同じであること、そしてそこに文化的背景が関わり変化する大切さを学んだ。

現在、我が国では緩和ケアに関する早急な体制整備、また多くの課題が求められている。厚労省緩和ケア推進検討会より打ち出された緩和ケアの推進に向けた方策では、意思決定支援、苦痛スクリーニング、基本的・専門的緩和ケアの提供、相談・地域連携体制の整備などの実践が示された。この実践における看護師の役割機能は更に拡大した。日本看護協会でも、認定看護師など有資格者の自覚、役割拡大を推進すべく、「がん患者カウンセリング」など診療報酬反映への働きかけ、厚労省委託事業である看護師に対する緩和ケア教育を担う指導者研修の実施を開始した。患者の意思決定支援を支えるために、基本的緩和ケアが実践できる現場看護師の教育、より実践モデルとなり専門的緩和ケアに橋渡しのできるリンクナースの教育が求められ、自身がその課題に向き合っているところである。そのため、今学会で“Palliative Care Nursing”のセッションを聴講し、この課題を強く意識した。

Wen-Yu Hu 氏 (Taiwan) は、大学教育において「公式カリキュラムと連続した現場教育の融合、緩和ケアに対する臨床でのスキルや姿勢を測る方法を創造すること」を述べられていた。現場教育において、卒前教育と卒後教育がリンクされた指導の必要性を感じた。また、Joan Ryan 氏 (Australia) は、「看護師の力や強さの価値は、end of life care の場における倫理的ジレンマに対して、常に挑戦し続けることであろう」と述べられていた。自分自身が緩和ケアの現場で生じるさまざまな葛藤に常に向き合い続けることの意味、患者・家族の擁護者であり伴走者であることの意味を再考できた。

TNFHNN に所属する看護師のみならず、緩和ケアに従事し続ける私達看護師は、今後多くの課題が求められている。財団で実施された TNFHNN メンバーの実態調査にあった「緩和ケアにやりがいを感じている」意識が、今後も持続していけるよう、患者・家族を支え、現場を支え、そして自分自身のモチベーションを維持しセルフケアしていく大切さを考える。喜多先生がまとめられた“結論”にある「Members of TNFHNN has strong sense of satisfaction in their current work of palliative care」の文に力をいただき、今後も現場の看護と共に歩み続ける看護師でありたいと思う。

最後に、今学会に参加する機会を与えていただきました笹川記念保健協力財団、関係者の皆様に深く感謝いたします。